

長野市おひざで絵本事業 絵本選定委員会 会議要旨

- 【日 時】 令和4年8月24日（水） 午前10時から正午まで
- 【場 所】 市役所第一庁舎4階 教育委員会室
- 【出席者】 委 員 飯田茂委員 荒井結花委員 稲富裕子委員 今井順子委員
西澤広美委員 柳澤安江委員 成田直美委員 古川美怜委員
事務局 藤澤勝彦教育次長
野池達朗家庭・地域学びの課長
前田大吾家庭・地域学びの課長補佐
古平京子家庭・地域学びの課係長
湯本美翔家庭・地域学びの課主事
佐藤文香長野図書館司書
近藤恭子豊野ひがし保育園長

【主な内容】

協議事項

(1) おひざで絵本事業について

～事務局より説明～

(質問・意見無し)

(2) 絵本の選定について

～事務局より説明～

(委 員 長) 事務局説明に対して、ご質問、ご意見はございますか。

(質問・意見無し)

(委 員 長) 新たに配布絵本に加えたい絵本について話し合った後、現在の5冊のうちどの絵本と入れ替えるかを決めたい。変わらないということもあるので、それも含みながらお願いしたい。推薦絵本一覧をご覧いただき、推薦する理由、入れ替えの本を順番に説明していただきたい。

(委 員 長) 私は、「きんぎょがにげた」を推薦する。この絵本は、鮮やかな色で美しい絵本だと思っている。内容に物語性があり、日常生活にある身近な物が出てきて、逃げ隠れする「きんぎょ」を親子で探す様子が目に浮かぶようで、楽しい関わりができると思う。初めて読み聞かせをする親にとってやり易く、子どもにプレゼントする絵本には適している。お薦め絵本リストにも掲載しており、「ぼんちんぱん」との入れ替えを考えている。

- (委員) 私は、「おつきさまこんばんは」を選んだ。表情を真似したり、顔と顔を見合わせて「にこっ」と笑ったり、その表情を見ながら読み進める、この絵本のあたたかい感じが良い。年齢を重ねていくごとに、絵本を通して子どもの成長を感じることができると思い選んだ。「くだもの」はロングセラーなので、持っている方も多いと思い、入れ替えの絵本として選んだ。
- (委員) 子育て支援に携わる中で、まずは「わらべうたを子どもたちに」ということで、絵本と一緒にわらべうたに力を入れている。「ねーずみねーずみどーこいきゃ？」を推薦したが、シリーズで他に「おせんべやけたかな」「へっこぷっとたれた」がある。子育て支援に来る、1歳までのお子さんには、この本は食いつきが良かった。また、保護者の方が「子どもとどう遊んだら良いかわからない」、特にコロナ禍で、「家で二人きりになったときにどうやって子どもと接したら良いかわからない」という悩みの声を聞くことが多い。一つのツールとして誰でも遊べるという利点があるので、保護者に薦めている。このわらべうたは、お子さんの手に触れながら、お母さんがくすぐるといもの。皮膚感覚を育てたり、自分の身を守る感覚を育てたりするために、わらべうたにも「くすぐり」の遊びが多いが、それがこの絵本ではできる。絵も、作者が東欧に住んでいるので、色使いがとてもカラフル。日本人が使わない色のトーン、「コラージュ」などいろんな手法が使われている。昨年度、検討事項になっていた「ぼんちんぱん」は、比較的新しい絵本なので、新しい絵本で交代していくということで入れ替えの本として選んだ。
- (委員) 「いないいないばあ」「がたんごとんがたんごとん」「くだもの」は、ロングセラー本で良いが、長年読み聞かせをやっている、「全部持っています」という保護者が多いように感じる。年配者が薦めたいという気持ちはわかるが、新しい絵本でも良いのではないか。「いろいろばあ」は、赤ちゃんが大好きな「いないいないばあ」で色の組み合わせを知ることができる。入れ替えたい本は、「いないいないばあ」で、配布冊数も少なくなってきているので、見直した方が良いと考える。
- (委員) 私は、「だっこだっこ」を選んだ。指定された金額を超えているが、皆さんも初めてだと思うので、紹介だけしたいと思い推薦した。見開きのページから絵があり、見やすい。迎えるとき、怒っているとき、気持ちが変動しているとき、どんなときでも「だっこ」をして、赤ちゃんも大人も癒してもらうという内容の本。登場人物の服装は、千代紙を使っているのも日本にも近い感じがしていて、統一感はないが、登場人物がお母さん限定ではなく読んでもらえるところは良いと思う。「もう おきるかな？」は、赤ちゃんとの関わりという内容が同じなので、入れ替えてはどうかと考えた。スキンシップは大事で、悲しい事件もたくさんあるので、こういうことをきっかけに家庭

環境を大事にしてもらえれば、という思いも込めて選んだ。

(委員) 私は、「ねむたいねむたい」を推薦する。最近、若い保護者は、子どもを寝かせるときにもスマホを見ながらやるような姿をよく聞く。例えばこの本を読んでいたとすると、そらまめのところで「ねたかなー？ねたかなー？ねたよー」と、単純な言葉だが、子どもを寝かせるときに「ねたかなー？」と半分遊びながらでもあやすことができると、子どもと親のつながり、優しい言葉がけができると考えた。最初に与える本として、こういうものも良いと思う。入れ替える本は、「いないいないばあ」を選んだ。

(委員) 私は、「かんかんかん」を選んだ。黒地で、子どもにもはっきりとわかりやすい。電車が通るような音が繰り返し出てきて、フォークやスプーンが並んでいたり、帽子を車のように見立てたり、もう少し大きくなってからも、発見があると思う。「ボードブック」で、丈夫だということも重要なポイントだと思う。

(委員) 同じく「かんかんかん」を選んだ。子どもが楽しいのはもちろんだが、読み手も楽しい絵本。絵ではない本は珍しいので、こういう絵本が1冊あっても良いと思う。同じカテゴリーの「がたんごとんがたんごとん」との入れ替えを考えている。どの子も乗り物に興味を持つが、「かんかんかん」は知名度が低いのではないかと思い、推薦した。

(委員長) ここで、2冊ほどに絞って、その中で選定したいと思うが、いかがか。置いてある絵本の見本を回していただきながら、意見を出していただければと思う。

(委員) 「おつきさまこんばんは」は、配布絵本だったが、どうしてやめたのか。

(事務局) 今、資料が手元にないので、入れ替えた経緯について、すぐにお答えすることができない。

(委員) 対象年齢が上だからか。

(委員長) 7か月の子と1歳の子では成長が違うので、選ぶのは難しいが、一番大事なことは、「おひざでだっこ」というスタートがあるので、保護者がどう関わるかを考えると、あまり年齢にこだわって選ばなければいけないということはないと思う。

(委員) 2歳向けと書いてあるが、あくまでも目安だと思っている。実際に、0歳児が読んでいないかというのと、読んでいる。卒にとらわれない、これからの子どもたちの成長を見据えての絵本選びでも良いのではないか。

(委員) 「どうぶつのおやこ」は、文がないので、保護者がどうやって読んだら良いかわからない、というのは何となくわかるが、「おつきさまこんばんは」も、「これはどうやって読んだら良いですか」という相談を受けることがあった。どうやって読んでも良いのだが、今の若い親御さんたちは、形を求めて

いるというのが絵本からも良くわかる。「ぼんちんぱん」は、誰が読んでもリズムが自然とついてくる絵本だが、「もらってきたけれど見なくなってしまった」という声を多く聞く。それが選定の難しいところだと思っている。昨年は、絵本を手渡しているだけだったが、今日の事務局の報告で、本当に素晴らしい改善をしていただいたと思っている。選ばれた理由で、それぞれ自分の意思を持って選ばれているのがすごくよく分かった。絵本というのは伝え方、手渡し方が大事だと思っている、どうしてこの絵本を選んだのかという理由を、今の保護者は求めているように感じる。今の子たちに手渡したい絵本ということで、選定するときに考えても良いと思う。4年前と今では社会情勢が大きく変わっていて、「暮らしや生活をサポートしてあげたい」という気持ちが、今年は強い。先ほどから、ロングセラーの絵本について議論になっているが、今この時代に生まれた赤ちゃんに何を届けたいのかということを考えて選定すれば、どの絵本でも届くと思う。活発な意見を交わして、決めたら良いのではないか。

(委員) そうは言っても、経験のある親ばかりではなく、一人目のお子さんという親もいるので、1冊はロングセラーの絵本を残したほうが良いのではないか。

(委員) 親が「いないいないばあ」を読んで育ったという人もいる。

(委員) 持っていない方も、中にはいらっしゃると思う。

(委員) 持っていない方のことを考えると、「いないいないばあ」は、はずしてはいけない絵本。これを読んで育ったという人は多い。今、子どもをあやすときにまったくの素人が何をやるかという、「いないいないばあ」とやる。そのくらい体に染みついているものであれば、あえてはずしてもいいのかなという気持ちにもなる。

(委員) 他にも「いないいないばあ」の絵本はある。

(委員) どうしても1冊変えなければいけない、ということであれば、私の場合は、体に染みついている「いないいないばあ」をはずして、他の絵本をと言ってもいいかもしれない。

(委員長) 昨年度の選定委員会で、事務局からの投げかけでこのことについて話題にした。「いないいないばあ」「がたんごとんがたんごとん」は平成21年から、「くだもの」は平成24年から続いている。事務局から投げかけがあったのは、このまま何となく続いてくのではなく、見返していくことも必要なのではないかということで、5年を目途に、意図的に扱って検討するということがあった。このときは、ロングセラーの絵本については、意味づけもあるということで、「継続」という形で良いのではないかという結論に至った。ただ、それはずっと続けるということではなくて、変えていくことが必要であれば当然変えても良いと思う。今回、委員の人数も増えて、それぞれの分野で

入ってきているので、変えるということであれば良いと思う。それでは、どれを選定するかということに戻って、ご意見をいただきたい。

- (委員) 私は「かんかんかん」が良いと思う。「がたんごとんがたんごとん」は、推薦絵本になって長い。今日初めて見たが、「かんかんかん」は良いと思う。
- (委員) 赤ちゃんの視力は、ここまで細かいものが追えないのではないかと思うが、皆さんいかがか。5歳くらいになると、理解して、この絵本の楽しさを味わえると思う。
- (委員) 「かんかんかん」は、おひざで絵本事業の対象者には難しいのではないかと感じる。意外と赤ちゃんは黒が苦手。どちらかという、白地に黒い縁取りは目につくが、黒は奥行きがわからないのではないかと思う。
- (委員長) 2人が「かんかんかん」を推薦している。理由を見ると、黒地ではつきりしている、繰り返しのリズムがある、身近な物で、少し大きくなっても楽しめる。年齢に限定しないで、もう少し先までという視点も大事だと思う。「黒」については、1歳までのお子さんにとっての見方や、全体的に絵本としてどうかと思っている。
- (委員) 指人形やペーパーサートなどをやるときは、背景は黒でやっていて、小さいお子さんたちも見に来ていると思う。黒はいけないのか。
- (委員長) 今までの選定委員会では、「ぼんちんぱん」が写真の絵本で、お渡しする絵本としてどうなのかという意見が出ていた。事務局で作成しているお薦め絵本リストには、委員の皆さんに推薦した絵本を掲載するよう考慮していただいている。
- (委員) 成長してから読める絵本も大事だが、「赤ちゃんの年齢で見やすい絵本」が5冊に絞る上では、線引きとして大事なのではないかと思う。「かんかんかん」も楽しい絵本なので、読むとしたら、幼稚園児にお薦めしたい。
- (委員) そうすると「がたんごとんがたんごとん」もそうなる。
- (委員) ただ、この5冊のうちに1冊は乗り物系があったほうが良いと思う。
- (委員長) 今までは「カテゴリー」で似たようなものが複数にならないよう、入れ替えている。令和2年度に変更した「どうぶつのおやこ」は、良い絵本だが、文がないので、保護者が読み聞かせをするときに、「どうしたらいいだろう」ということになってしまうため、そこに言葉がついているものに変更した。
- (委員) 7～8か月の子どもたちのファーストブックとして、それにふさわしいものを選んであげなくてはいけないと思う。初めて出会う絵本とどうやって出合わせるかということ、初心に戻って大事に考えていく必要がある。
- (委員長) ここで、2冊に絞っても良いか。
- (委員) 2冊ずつ挙手していくのはどうか。
- (委員) こんな絵本もある。「でんしゃ くるかな?」1冊の推薦しかできなかった

たので紹介しなかったが、実はこれも推薦したい絵本。

- (委員長) それでは、2冊考えていただき、そこから集計したいと思う。
- (委員) 「ぎゅうぎゅうぎゅう」という絵本もある。ただ、家族3人の描写があるのでどうかとも思う。赤ちゃんを抱っこしてあげるということはすごく大事だし、親にも良いと思う。
- (委員) 「でんしゃ くるかな？」は、子どもと一緒にすごく期待して、電車を迎えて、一緒に乗って行って、「ばいばーい」という、単純だがとても良い。
- (委員長) 福音館書店で2021年に出版されている、新しい絵本。
- (委員) 2018年にソフトカバーで最初に出ている。
- (委員長) それでは、一人2冊ずつ挙手をお願いしたい。

【結果】

「きんぎょがにげた」1票、「おつきさまこんばんは」1票

「ねーずみねーずみどーこいきゃ？」3票、「いろいろばあ」1票

「だっこだっこ」1票、「ねむたいねむたい」2票、「かんかんかん」3票

「でんしゃ くるかな？」4票、「ぎゅうぎゅうぎゅう」0票

- (委員長) 「でんしゃ くるかな？」を推薦していくということで良いか。

(一同賛成)

- (委員長) 次に、入れ替える絵本についてお話いただきたい。
- (委員) 似ているカテゴリーだと「がたんごとんがたんごとん」。また、動物も出てくるので「もう おきるかな？」もある。
- (委員長) 「がたんごとんがたんごとん」は、13年間続いている。「もう おきるかな？」は、今年3年目、一番最近入れ替えた絵本。同じ動物の絵本と入れ替えた。同じカテゴリーで、動物または電車の絵本を入れ替えたほうが良いという意見が出たが、他に意見はあるか。
- (委員) 「でんしゃ くるかな？」は、やはり電車が大きなテーマになっていると思う。はずすとしたら「がたんごとんがたんごとん」ではないか。今回は1冊だけ変えるということか。2冊変えても良いのか。
- (委員長) 事務局の説明では、1～2冊ということになっているので、2冊でも良い。私の任期2年の中では、1年目に1冊変えて、2年目は継続という形になった。今回2冊変えても良いが、来年また検討して変えることもできる。今回は、1冊入れ替えるということが良いと思うが、よろしいか。
- (委員) 先ほど、手に取りやすい身近な本をという意見をお聞きした。カテゴリーは違うが、そういう意味だと、「ぼんちんぱん」は読みやすいが、飽きやすいのかなと思う。「がたんごとんがたんごとん」をはずして、「ぼんちんぱん」が残るとなると、「ぼんちんぱん」を今回ははずしてもいいのではないかと考えてしまう。皆さんはいかがか。

- (委員) 配布数一覧を見ると、「ぼんちんぱん」が一番多い。
- (委員) 今はパン食も多く、子どもはパンが大好きなので、人気ではあると思う。
- (委員) 「いないいないばあ」「がたんごとんがたんごとん」は、比較的どこの本屋さんに行ってもだいたいあって、地味な感じなので、若い保護者の方はあえて選ばないような気がする。だからこそ、プレゼントするところに載せておいていいのかなと思った。
- (委員長) この選定委員会として、人気はないかもしれないが、大事にリストの中に入れていくという考え方もあるので、ただ数だけ、人気だけにとらわれなくて良い。「がたんごとんがたんごとん」「もう おきるかな?」「ぼんちんぱん」この3つの案が出ているが、挙手でもよろしいか。
- 【結果】「がたんごとんがたんごとん」4票、「もう おきるかな?」0票
「ぼんちんぱん」4票
- (委員長) それぞれ同票になった。一つに絞るために、もう少しアピールしてください。
- (委員) 「電車」というカテゴリーだと、「がたんごとんがたんごとん」が交代するのは妥当だと思うが、絵本の中身は、「がたんごとんがたんごとん」が子どもたちに伝えようとしていることと、「でんしゃ くるかな?」が伝えようとしていることは違うと思っている。「がたんごとんがたんごとん」の場合は、リズムが良くて子どもが唱えやすいということは、「電車」というカテゴリー以前に、すごく大きな要素としてあると考えて、普段読み聞かせをしている。リズム感みたいなものを考えていくと、「がたんごとんがたんごとん」と「ぼんちんぱん」は似ている。「ぼんちんぱん」は、とっつきやすいので数字的には人気があるように見える。「でんしゃ くるかな?」は、「くるかな、くるかな、きたー」というところで、子どものわくわく感というか、心の遊び方ができる絵本だと思うので、「がたんごとんがたんごとん」とは違う絵本の伝わり方だなと思っている。
- (委員) 「ぼんちんぱん」は、本屋さんで必ずと言ってもいいほど目にするので、逆に、ベストセラーで、手に取る機会が少ない絵本をもらえるほうが、「自分では買わないけれどももらえるなら」という感覚を大事にしてもいいのかなと思う。ただ、ここに電車が二つ並ぶのはどうかと思う。私たちは、絵本と関わっているので内容を吟味して選ぶが、保健センターでの一瞬の出会いの中では、難しい。そういう意味では「ぼんちんぱん」は選びやすかったと思う。赤ちゃんが最初にしゃべるのは、破裂音「ばびぶべぼ」なので、そういう意味でも選びやすかったのではないかなと思う。
- (委員) 絵本というのは、読んであげるもの。読んであげるときに、「ぼんちんぱん」というのと「がたんごとんがたんごとんがたんごとん」というのは違うと思う。もしかしたら「でんしゃ くるかな?」の中で、(電車の部分を)「がた

んごとんくるよ、きたきたー」と読むかもしれないと思った。だからあえて「がたんごとんがたんごとん」を自分の中でははずした。赤ちゃんのときに、その破裂音を「楽しむ」というのが、「ぼんちんぱん」なのかなと思う。

(委員 長) それでは、入れ替える絵本についてどちらが良いか、もう一度挙手してください。

(同数であったため、委員長以外の7人で再度挙手)

【結果】「がたんごとんがたんごとん」 4票

「ぼんちんぱん」 3票

(委員 長) 「がたんごとんがたんごとん」を入れ替えるということによろしいか。

(委員) これだけ「ぼんちんぱん」をはずした方が良いという意見が多いので、収まりがつかない。

(委員 長) 前回も「ぼんちんぱん」ははずしても良いのではないかという意見があったので、来年度検討するということにしたいと思う。

(委員 長) それでは、今回贈呈する絵本は、「いないいないばあ」「くだもの」「もう おきるかな?」「ぼんちんぱん」「でんしゃ くるかな?」の5冊に決定する。